

<社会情勢>

- ・人口減少・超高齢社会の到来
(和光市はここ 30 年間で倍増、2035 年までは増加予想、
老年人口の割合は年々増加)
- ・コンパクト・プラス・ネットワークの推進
- ・都市のスポンジ化進行
- ・安全・安心まちづくりの更なる推進
- ・地方創生 SDG s ・「環境未来都市」構想の推進
- ・グリーンインフラの推進
- ・日本版 MaaS、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり
などの進展
- ・新型コロナ危機を契機としたまちづくりの必要性

<上位関連計画>

- ・「みどり輝く 生きがい創造都市」
(コンパクトなまちの実現、地域の個性ある発展、都市と
自然・田園との共生) [まちづくり埼玉プラン](#)
- ・中心拠点：和光市駅周辺／産業拠点：和光北インターチェ
ンジ周辺、本町地区、中央一丁目・二丁目地区
[和光都市計画区域マスタープラン](#)
- ・みんなをつなぐ ワクワクふるさと 和光
日々の生活の基盤が整っている／それぞれのライフステ
ージを充実させる／心豊かに、満足度の高い生活が送れる
- ・人口は、2031 年に約 90,000 人の予想

[第五次和光市総合振興計画基本構想](#)

<実施中の事業>

- ・国際研究開発・産業創出拠点形成
→外国人研究者を活用した研究開発や研究成果を活かし
た事業活動の促進、理化学研究所と県内企業との交流・
連携をより一層促進するための事業実施
- ・土地地区画整理事業（3 地区）
※長期未着手土地地区画整理事業（中央土地地区画整理事業）に
ついては見直し検討中
- ・和光駅北口地区高度利用化推進事業
- ・住宅市街地総合整備事業
→西大和団地の再生
- ・国道 254 号バイパス延伸に関する都市計画変更
- ・東京外環自動車道新倉 P A のサービスエリア化構想
- ・地域拠点間を接続する自動運転サービス導入事業（和
光版 MaaS 構想案）
- ・午王山遺跡保存活用
- ・ごみ処理広域化検討

<現 状>

●土地利用

- ・鉄道路線の北側は主に住宅用地が分布している。この地区は昭和 45 年に中
央土地地区画整理事業として 142ha が都市計画決定されている。中央土地地区
画整理事業は、現在、和光市駅北口土地地区画整理事業が事業中であるが、残
りの 105.2ha については今日まで事業化に至っていない
- ・「和光市駅北口地区高度利用化推進事業」では、駅と駅前広場をつなぐ屋内の
広場空間である『ガレリア』を備えた駅直結型の建物が整備される予定
- ・市役所を中心とした公共施設が集積するエリアでは市有施設や西大和団地の
老朽化が進んでいる

●道路・交通

- ・和光市駅北側では都市計画道路の未整備路線が多く、幅員 6 m未満の狭隘な
道路が多い
- ・東武東上線、東京メトロ有楽町線、副都心線が通り、市中心部に和光市駅が
あり、東京都心への利便性の優れた立地であるが、市内の交通網が十分では
なく、高齢者への公共交通の充実を図る必要がある

●みどり・環境

- ・4 か所の特別緑地保全地区や 5 か所の市民緑地（ふれあいの森）がある
- ・市内全域の緑被率は 33.8%（平成 28 年）と豊かな自然環境を有している
- ・生産緑地の指定は 144 地区、39.15ha（令和 2 年 1 月）
- ・総農家数、農家人口、経営耕地面積ともに減少が続けている

●安心・安全

- ・地形上低地の市域北部は和光市洪水ハザードマップにおいて、浸水可能性の
ある区域となっている
- ・土砂災害ハザードマップにおいて、市域に複数個所の土砂災害警戒区域が設
定されている

●産業

- ・昭和 35 年頃に始まった人口の急増を背景に第 2 次、第 3 次産業を主体とし
た就業構造へと移行している
- ・和光市駅周辺に及び都市計画道路沿道に大規模小売店舗が存在し、白子地区
には生活に密着した近隣型商業地が分布している

<課 題> ★第五次和光市総合振興計画基本構想で示された課題

●土地利用

《和光市駅の拠点性向上》

- ・和光市駅北口の土地地区画整理事業では駅前広場整備について検討中であり、駅北口周辺の
交通・商業等の拠点性、安全・安心の観点から早急に事業を進める必要がある★
- 《市役所周辺の拠点性・にぎわいの創出》
- ・団地周辺の市役所をはじめとする市有施設の老朽化対策、西大和団地再生に向けた住環境
の改善など市役所周辺の一体的な整備を推進し、魅力的な地区の再生を図り、にぎわいを
創出することが必要である

●道路・交通（和光版 MaaS の展開）

《安全な生活道路等の整備》

- ・都内につながっていない幹線道路があることから、生活道路にトラックなどが流入するなど歩行
者の安全性が確保されていない場所もあり、安全な生活道路、歩行空間の確保が必要である★
- 《高齢化等に対応した地域公共交通の充実》
- ・少子高齢化が進展する中、既存の公共交通等だけでは、移動のニーズが充足できておらず、
坂が多いため、体力の低下などにより移動が困難になりやすい地域、和光市駅や和光市役
所までの交通アクセスが円滑ではない地域があり、コンパクトなまちづくりと連携して、
地域公共交通の充実を図ることが必要である★

●みどり・環境（まち・暮らしの質を高めるみどりの活用）

《自然環境の保全》

- ・市内各所に農地や斜面林、湧水などが残っており、緑などの潤いが感じられるが、それらの
自然環境が宅地の無秩序な開発が進むことで失われつつあり、自然環境の保全が必要
- 《生産緑地地区の保全と活用》
- ・都市化の進展や担い手不足等により農地が減少しており、市街地に残された都市農地をま
ちづくりに生かすため、生産緑地地区の保全と活用に向けた対策が必要である

●安心・安全

《災害に対応した土地利用の形成》

- ・水害時などの浸水や土砂災害などのリスクがある地域があり、災害上危険な土地について
の土地利用制限や地域ごとに最適な土地利用を選択すべきである★
- ・土砂災害警戒区域について、地域住民との協働によって、安全で最適な土地利用方法を検
討すべきである

●産業

《和光北インターチェンジ周辺の活性化》

- ・和光北インターチェンジ周辺で実施中の各種事業により新たな産業拠点を生み出すなど、
地域産業の振興を図ることが必要である★
- 《商業機能の充実》
- ・地域コミュニティをこれまで支えてきた小規模事業者が少なくなっており、和光市駅周辺
の商業機能の充実、各地域の商業地における活動の支援や賑わいの創出が必要である★